

# 英和辞典の記述 — 英文解釈論資料

藤 本 正 文

はじめに

a. 3英和辞典（等）の記述（153単語242語法）

b. 13英和辞典の記述（21単語24語法）

はじめに

- 1 本稿は、筆者が現在原稿を執筆中である一つの英文解釈キーワード論（追って公表する）のための基礎資料である。本稿における記述は、すべてその論述の中の「英和辞典の記述」の章に照らし合わせて読まれるものとなることを前提にしている。
- 2 ≪a. 3辞典（等）の記述（153単語242語法）≫は、上記「英和辞典の記述」の中の「手続・まとめ」の「3」において説明をする調査の記録である。
- 3 ≪b. 13辞典の記述（21単語24語法）≫は、上記「英和辞典の記述」の中の「手続・まとめ」の「2」において説明をする調査の記録である。
- 4 本稿はいまこれを、たんにこれのみの独立の一編として提示しなければならない。その理由は次の3点である。① 内容が調査の結果を無加工のまま記録するものである。② この記録は上記の英文解釈キーワード論（それは英和辞典論ではない）への編入になじまない性質のものである。③ しかしこの記録は、かならずなんらかの形で公開される必要がある。
- 5 本来であれば、上記のキーワード論を公表したのちにこの本稿を公表することが自然な手順である。しかしあえてそれに従わない理由は次の2点である。① 前者の達成にまだ具体的な目処がたっていない。② 英和辞典にはいずれ改版が行われる（どの辞書でどの時期になるかは予測できない）。するとその辞書についての一切の調査結果に、その有効性はたんに改版の日の前日までのもの、という限定が付与されることになる。よって出来るだけ早く、出来るだけ改版という事態が経験されることが少ない時点で、得られた調査結果を印刷物として固定化する手続きをとっておくことが必要である。
- 6 本稿の記述は上記のキーワード論の原稿（現在文言を推敲する段階に入っている）の2000年2月1日における状態に準拠している。また同キーワード論において、この本稿の記述との不一致を生む性質の文言の変更（つまりは英和辞典に関係のある変更）は、当日以後に行なわない方針である。ただし、各項目右肩の小番号の変更を必要とする個所が生ずる可能性は（極力回避するが）絶対に無いとはいいきれない。（2000年2月1日記）

## a. 3英和辞典（等）の記述（153単語242語法）

序／辞典一覧／a<sup>1</sup>～you<sup>5</sup>

### 序

- ここに3英和辞典とは、本稿冒頭に触れた英文解釈キーワード論において「資料」E-1類として挙げる予定のKNC, ORE, TGEの3辞典をいう。
- 見出し語の肩にある小さな番号は上記のキーワード論で使用する番号である。それぞれの見出し語について、その次に短い字句であらわす語法を問題にしている。ここではそれぞれの語法について、上記の英和辞典および下記の英和辞典、英英辞典の記述——例示文、意味の規定、説明の文言、等——をそのまま転記する。ただし「本文」とあるのは、当該辞典の記述を上記のキーワード論の本文の方に転記する予定であることを表わす。
- 上記の「資料」E-2類のKCL, KEJ, KGR, SRHの4英和辞典の取り扱い：  
先のE-1類の3辞典のいずれにも納得のできる（批判の余地のない）ものとして転記することのできる記述がなかった場合にのみ、これらの辞典を参照することになっている。そしてこれらの4辞典のいずれにもやはりそのような性質の記述がなかった場合には、その都度その事実を、上記のキーワード論の中で報告する。またその場合には、これらの4辞典のことはこの本稿の中に何らの言及も残さない、という形にしておく。
- 上記の「資料」E-3類のICE, INE, KNE, OCE, SCC, SPEの6英和辞典、E-4類のLGM, OAL, WBSの3英英辞典の取り扱い：  
とくに必要があった場合にのみこれらに触れる。なおこれらの辞典の検索件数は、E-2類の4英和辞典にたいするそれとは比較にならないほど少ない。
- 辞典には改版が行われることがあるが、以下はすべての辞典について、その1999年8月の時点での状態を表わしている。（このupdateの手続きは、上記のキーワード論の中の「英和辞典の記述」の「手続・まとめ」で述べる。）
- 各項目の末尾に、そこにはいかなる性質の記述が転記してあるか、を記す。

### 辞典一覧

英和辞典、英英辞典の書名、版、それぞれの略号は次のとおり。また略号は、上記のキーワード論の「資料」-2-E 1類, 2類, 3類, 4類に掲げるものと同じである。

『岩波英和大辞典』中島文雄編（岩波書店、1970,90-18刷）⇒ ICE／『岩波新英和辞典（補訂版）』中島文雄、他編（岩波書店、1987,91-補訂6刷）⇒ INE／『講談社英和中辞典』川本茂男他編（講談社、1994,95-2刷）⇒ KEJ／『研究社リーダーズ英和辞典（第2版）』松田徳一郎監修（研究社、1999,99-1刷）⇒ KGR／『研究社カレッジライトハウス英和

辞典(初版)』竹林滋, 他編(研究社, 1995,95-2刷) ⇒ KCL/『研究社新英和中辞典(第6版)』小稲義男, 他編(研究社, 1994,95-6刷) ⇒ KNC/『研究社新英和大辞典(第5版)』小稲義男編(研究社, 1980,91-22刷) ⇒ KNE/『旺文社英和中辞典』高橋源次監修(旺文社, 1975,91-重刷) ⇒ OCE/『旺文社ロイヤル英和辞典』宮部菊男, 他編(旺文社, 1990,91-重刷) ⇒ ORE/『三省堂カレッジクラウン英和辞典(第2版)』大塚高信, 他編(三省堂, 1986,91-5刷) ⇒ SCC/『小学館プログレッシブ英和中辞典(第2版)』小西友七, 他編(小学館, 1987,91-15刷) ⇒ SPE/『小学館ランダムハウス英和大辞典(第2版)』同辞典第二版編集委員会編(小学館, 1994,94-1刷) ⇒ SRH/『大修館ジーニアス英和辞典(改訂版)』小西友七編大修館書店, 1994,95-改訂再版) ⇒ TGE/ *Longman Dictionary of Contemporary English*, 3rd ed., ed. Della Summers (Longman Group ltd., 1995) ⇒ LGM/ *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 5th ed., ed. Jonathan Crowther (Oxford: Oxford Univ. Press, 1995) ⇒ OAL/ *Webster's Third New International Dictionary of the English Language*, ed. Philip Babcock Gove (G. & C. Merriam-Webster, 1976) ⇒ WBS

a<sup>1</sup>(冠) a + 普通名詞

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

論文などの題名の例

(KNC) a Newton ニュートンのような人(大科学者)

(ORE) a Mozart モーツァルトのような天才音楽家 / a Daniel (ベニスの商人の) ダニエルのような名裁判官 / the mind of a Newton or a Bach ニュートンやバッハのような精神 / a second Machiavelli マキアベリの再来(ともいうべき人)

(TGE) 本文

挙げられている例(他の辞書については本稿のbの調査を参照)

a<sup>2</sup>(冠) a + 形容詞 + 普通名詞

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

a<sup>K</sup>(冠) / o n e<sup>K</sup>(名) 分数の特例

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

a<sup>3</sup>(冠) a + 序数詞(+ 名詞)

(KNC) -

(ORE) a third reason

(TGE) 本文

例文

a<sup>7</sup>(冠) a + 形容詞 + 抽象名詞

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

説明と例文

a d d r e s s (動)「とりくむ」

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

例文

a<sup>9</sup>(冠) a + 固有名詞

a l l<sup>1</sup> (代) 無特定のな人々

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

a l l<sup>2</sup> (代) 情緒的な用法

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
用法があることへの言及

a l l<sup>7</sup> (形) 情緒的にあたる例文

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文-  
例文 (言及)

a l l<sup>14</sup> (副) at all

(KNC) 否定文, 否定文, 条件文。  
(ORE) 否定文, 疑問文, 条件節 (その例文には本文引用のものがある)。(また肯定文もあるが, それは「indeed」の意味の方言である, と。)

(TGE) 否定文, 条件節, 疑問文, 肯定文 (その例文は本文引用のもの)。

SRH: 否定文, 疑問文, 条件節, 肯定文 (Well, I'm happy to see you at all.)  
生起する環境の規定

a l l e g e d (形) alleged ~

(KNC) 本文  
(ORE) 本文  
(TGE) 本文  
KGR: 本文  
例文

a m o n g<sup>1</sup> (前) among ~<sub>1</sub> be ~<sub>2</sub> 存在をあらわす

(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) -  
例文

a m o u n t<sup>1</sup> (名) no amount of ~

(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) -  
例文

a n o t h e r (形) just another ~

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
例文

a n y<sup>2</sup> (形) 最上級とともに用いる場合

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
ICE: He is the most generous man of any.  
KGR: He is the best-known of any living novelist. 現存小説家中もっとも有名だ  
例文 (他の辞書については本稿の b の調査を参照)

a r o u n d<sup>1</sup> (副, 形) around が補語である場合

(KNC) -  
(ORE) 本文/副詞  
(TGE) the most productive of the writers (who are) around./副詞  
例文/この例文が所属する品詞

a s<sup>1</sup> (副) as + 形容詞

(KNC) 本文  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

a s<sup>4</sup> (接) ~<sub>1</sub>, as ~<sub>2</sub> 「~<sub>1</sub> である。すなわちこのようにして ~<sub>2</sub> である次第だ」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

a s<sup>5</sup> (接) ~<sub>1</sub>, as ~<sub>2</sub> 「同程度の事柄が存在しないほどに著しく ~<sub>1</sub> である」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

a s<sup>9</sup> (接) as C as S be, 余剰な as

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文

言及

a s<sup>12</sup> (接) 名詞 (,) as ... ed.

(KNC) 本文 / -

(ORE) - / -

(TGE) - / -

ICE: - / 本文

SCC: Mt. Fuji as seen from Suruga / 本文

前が制限的、後が追叙的であるような例。なお、「限定」「制限」の対象となるものについて、ICE, INE, KGR の記述は本文のとおり。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

a s<sup>13</sup> (接) 名詞 (,) as ~ (~ は SV をもつ形式),  
かつ、とくに後半が追叙的であるような場合。

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

SCC: (元来の意味は「...のように」であるが、文頭・文尾または途中で挿入されて) ...だが；(文頭に出ている形容詞や分詞の次に挿入された場合は、けっきょく強めのことばとなる) 実際、事実。This is an example of natural selection, as you call it (as it is called) これがいわゆる自然選択の一例である (以下は訳文を省略する) As it happened, I had not money enough with me, but sufficient at home. / While we were talking, as it happened, our friend George came into the outer office. / As good luck would have it, a policeman was passing our house. / He is quite well, as it appears. / If I had more experience, I might not mind it so much, but as it is, I am terrified. / —あまりにも多いので以下4例の転記を省略する。

掲記に該当する例文。なお、<SCC>は、「挿入的に」という範疇のもとでの記述の転記。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

a s<sup>15</sup> (接) S be as ~<sub>1</sub> as S be ~<sub>2</sub> ① 双方が相  
並んで存在

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

a s<sup>16</sup> (接) S be as ~<sub>1</sub> as (S be) ~<sub>2</sub> ② 双方が相  
並んで存在、かつ順序が逆転。

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文 (言及)

a s<sup>17</sup> (接) 否定のレトリック

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KEJ: 本文

例文

a s<sup>18</sup> (接) As ~<sub>1</sub> be to ~<sub>2</sub>, ~<sub>3</sub> be to ~<sub>4</sub> /  
~<sub>3</sub> be to ~<sub>4</sub> as ~<sub>1</sub> be to ~<sub>2</sub>, 並行  
の関係

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) 本文

例文

a s<sup>23</sup> (接) as though ~, 直説法の場合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

a s<sup>34</sup> (関代) as be S ..., as が補語である場合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

a s<sup>35</sup> (関代) as be S ..., as が補語、かつ非制限  
的用法

(前項目を参照)

a s i d e (副) ~ aside

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KEJ: 本文

KGR: 本文

例文

b a r e l y<sup>2</sup> (副) 否定的な用法

(KNC) 本文

(ORE) I can barely understand him. 私には彼(の言うこと)がほとんどわからない/  
They barely need a thing. 彼らに必要なものはほとんどない

(TGE) a barely furnished room 家具がわずかしかついていない部屋

例文(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

b e<sup>2</sup> (動) 前置詞 + ~<sub>1</sub> be ~<sub>2</sub>, 存在をあらわす

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

b e<sup>3</sup> (動, 助) 形容詞 be ~ / ...ing be ~, 存在をあらわす

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

b e<sup>4</sup> (動-定形) be S ~<sub>1</sub> or ~<sub>2</sub> 可能性の列挙

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

ICE: be it true or not.

KGR: Be it true or not.

KNE: be it true or not.

言及(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

b e<sup>5</sup> (動-定形) be that as it may

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

b e<sup>7</sup> (助) S be ...ing, 事柄の同一性

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

言及

b e<sup>8</sup> (助) S be ...ed, 現在の状態

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

b e<sup>12</sup> (助) S be to do 当人の意図

(KNC) -

(ORE) It's time we moved on if you're to catch that train. その列車に乗るつもりなら腰を上げるしおどきだ

(TGE) 本文

言及

b e<sup>13</sup> (助) S be to do 別の人の意図

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) The letter was to announce their engagement. 手紙は彼らの婚約を知らせるためのものでした

言及

b e c a u s e<sup>2</sup> (接) Just because ~<sub>1</sub>, ~<sub>2</sub>. ~<sub>1</sub>の内容を~<sub>2</sub>の中で代名詞であらわす.

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

言及

b e f o r e<sup>1</sup> (接) ~<sub>1</sub> before ~<sub>2</sub>. 「~<sub>1</sub>であって、そしてその後に~<sub>2</sub>である」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

b e f o r e<sup>3</sup> (前) ~<sub>1</sub> before ~<sub>2</sub>. 「~<sub>1</sub>であって、そしてその後に~<sub>2</sub>となる」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

b e i n g<sup>K-1</sup> (動-分詞) 名詞, S V .. 「Sはすなわち名詞であるが、さてこのSはV ..である」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

being<sup>K-3</sup> (動一分詞) 名詞<sub>1</sub> + 形容詞相当語句, S V … / 名詞<sub>1</sub> + 名詞<sub>2</sub>, S V … (独立分詞構文的)

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

best (副) S be best … ed 「S は…されるのにかぎる

(KNC) That is best refused. それは断るのがいちばんいい

(ORE) 本文

(TGE) -

KNE: This is best refused.

SRH: It is best ignored.

言及(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

but<sup>8</sup> (関副, 関代) ~<sub>1</sub> but ~<sub>2</sub>, 関係副詞の場合

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

challenging (形) 大変な

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文 / a challenging course

例文

choose (動) 名詞 + to choose from

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

言及

combined (動一分詞) 複数的である名詞 + combined

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

come<sup>10</sup> (動一分詞) 名詞 + come ~

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文(説明)

comparable (形) 「それと同等の」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

WBS: 本文

この意味による用例

compared (動一分詞) ~<sub>1</sub>, compared to ~<sub>2</sub>

(KNC) - / (The earth is only a baby compared with many other celestial bodies.)

(ORE) - / (They are well off compared with what they were ten years ago.)

(TGE) - / (-)

WBS: 本文 / (-)

言及。初めに当面問題にする用例, / の次は文の述部が compared with ~” の ~ のところと比較されているような例。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

concern<sup>2</sup> (名)

(KNC) 本文

(ORE) 順調に行っている事業(会社) -

(TGE) 営業中の(通常うまくいっている)会社(事業)

意味の説明

conscience (名)

(KNC) 善悪の観念 / -

(ORE) - / -

(TGE) 本文 / -

本文に述べたような意味規定 / 本文に述べたような例文

constitute (動) 「性質上 ~ に相当している」

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

could<sup>1</sup> (助) 仮定法, if 節のない平凡な仮定

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

could<sup>5</sup> (助) could S have...ed

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

could<sup>6</sup> (助) S could not do more / S  
could not do less

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
言及

counterpart (名) 再言及の手段

(KNC) (The Japanese counterpart of a  
first-class railway carriage is a Green  
Car. 一等車の日本版はグリーン車である)

(ORE) 本文  
(TGE) (The Diet Building in Japan is a  
counterpart of the Capitol in the United  
States. 日本の国会議事堂はアメリカのキャ  
ピトルにあたる)

例文

cover (名) for cover

(KNC) 本文  
(ORE) seek cover during a storm  
(TGE) The trip was a cover for his  
smuggling.

例文

credit (名) 悪いことの責任

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

decide (動) 「判断を下す」

(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) I decided (that) I was too old to  
take the job. その仕事に就くには年がいき  
すぎていると判断した(思った)

言及

democracy (名) 民主主義国

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KCL: 本文  
例文

denial (名) a denial that ~

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KCL: 本文  
この構文への言及

determine (動) 「判断を下す」

(KNC) -  
(ORE) 本文。また, I checked the body and  
determined that it was too late for any  
attempt at resuscitation. 私は死体を点検  
してみて生き返らせようとするには遅すぎ  
ると判断した。(これらが a previously  
determined action (あらかじめ決定されて  
いた行動方針) と同居。)

(TGE) -  
SRH: 「結論を下す。断定する」。(例文なし)  
語義への言及とその例文

dozen (名) dozens of ~

(KNC) 口語  
(ORE) 口語  
(TGE) 略式  
スピーチレベルの指定

economy (名) 経済地域

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

element (名) 『四大』

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
SRH: 本文  
用例の提示



enough<sup>2</sup> (副) enough that S V ..  
(KNC) 本文  
(ORE) He said so loud enough that all  
could hear.  
(TGE) 本文  
例文

even<sup>4</sup> (副) even though ~  
(すべて本文に記す。)

even<sup>K</sup> (副) センテンス (の一部) のレベルで  
の意味

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

ever<sup>1</sup> (副) 通時間的  
(転記を省略する)

every<sup>3</sup> (形) every now and then

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
LGM: 本文  
例文

except (接) except ~ 「ただし、~ という点  
はあるけれども」

(KNC) 本文  
(ORE) -  
(TGE) -  
KEJ: 本文  
言及

experience (名) 知覚の上に起こること

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
例文

face (名) しかめっつら

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KCL: 本文  
センテンスによる例示

far<sup>1</sup> (副) so far / thus far

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
thus far の方の例文

fault (名) 断層

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KEJ: 本文  
例文

few<sup>2</sup> (代) 「ほとんどの人が...でない」

(KNC) 否  
(ORE) 否  
(TGE) 否  
2つの意味範疇の別建て

find<sup>1</sup> (動) 「...である」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
意味についての説明文

find<sup>2</sup> (動) S find oneself in + 場所を表わす  
名詞

(KNC) (自分が) ...の状態に(場所に) いるのに  
気づく / 本文  
(ORE) 自分の位置(状態) に気づく / -  
(TGE) (気がつくと) ある場所・状態に) ある,  
いる / -  
意味の説明 / 例文

for<sup>2</sup> (接) ~<sub>1</sub>. For ~<sub>2</sub> 独立のセンテンスをつ  
くる

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
SRH: 本文  
言及

for<sup>4</sup> (前) 「~という結果をえて(ともなって)」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

game (名) 獵獸, 標的

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH 本文

例文

given<sup>1</sup> (形) a given ~ / any given ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

LGM: 本文

given<sup>2</sup> (動-分詞) given ~ 「~ が在るのだから」

(KNC) (Given good health, one can achieve anything. 健康でいられれば)

(ORE) (Given the above assumptions, it is predicted that ... 上述のように仮定すれば...と予測される / It would be possible, given a little more time, to save your company. もう少し時間があればあなたの会社を救うことは可能でしょう)

(TGE) 本文

LGM: Given the circumstances, you've coped well.

OAL: Given the government's record on unemployment, their chances of winning the election look poor.

WBS: Given the national panickiness..., liberals have to be very careful of the company he keeps.

この形式にたいして与えられている例文。カッコでくくったものは当面の使われ方に該当していない。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

given<sup>3</sup> (動-分詞) given that ~ 「~ という事実が在るのだから」

(KNC) (Given (that) one is in good health, one can achieve anything. (健康でいられれば)

(ORE) (Given a = b (a = b ナラバ) / Given that all men are equal (すべての人が平等だとすれば)

(TGE) 本文

SPE: 本文

SRH: 本文

この形式にたいして与えられている例文。カッコ内のものは当面の使われ方に該当していない。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

gone (動-分詞) 名詞 + gone ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

grain (名) 気質

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

例文

granted (動-分詞) Granted, ~<sub>1</sub>. But ~<sub>2</sub>

(KNC) Granted that what you say is true, it's no excuse. 仮に君の言うことが本当だとしても, それは言い訳にはならない

(ORE) Granted that you are right ... 仮に君が正しいとしても...

(TGE) 本文

例文

had<sup>1</sup> (助) had ... ed 前過去

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

had<sup>3</sup> (助) had S<sub>1</sub> ... ed

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及 (例文)

half (副) half again as much / half as much again

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

例文

have<sup>7</sup> (動) have O ... ed 受動の状態の持続

(KNC) They had a chart spread (out) on the

table. 海図をテーブルの上に広げていた  
(ORE) 本文  
(TGE) -  
これに該当する例文 (他の辞書については本稿の  
b. の調査を参照)

h a v e<sup>15</sup> (動) O S have to do  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

h a v e<sup>17</sup> (助) S have 予告のある場合  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

h e l p<sup>1</sup> (動) 「悪いことを助長する」  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KGR: help one's ruin. 滅亡を早める  
例文

h e l p l e s s (形) / ~ l y (副) 「(自分では)  
どうにもなら  
ない/ならな  
くて」  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KEJ: 本文  
副詞の場合の例文

h e n c e (副) S V ... Hence + 名詞句  
(KNC) Hence (comes) the name ...  
(ORE) Hence the name ...-  
(TGE) -  
KCL: 本文  
Hence 以下の部分がセンテンスになっている例  
(の示し方)。

h o p e f u l l y (副) 「願わくば」  
(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) Hopefully today would be a better  
day.

例文

i f<sup>1</sup> (接) 名詞 + if ~  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

i f<sup>2</sup> (接) ~<sub>1</sub>, if only because ~<sub>2</sub>  
(KNC) 本文 (-)  
(ORE) - (...という理由からだけでも)  
(TGE) - (-)  
INE: - (...という理由からだけでも)  
例文 (カッコ内は意味の説明) (他の辞書について  
は本稿の b. の調査を参照)

i f<sup>7</sup> (接) if at all  
(KNC) 本文  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

i f<sup>8</sup> (接) if ever  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KGR: 本文  
言及

i f<sup>11</sup> (接) if it had not been for ~ / had it  
not been for ~  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文 (上記は接続詞 if, および動詞 had のところ  
での状況)

i n<sup>1</sup> (副) 動詞 + in on ~  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
in の語のもとでの記載

i n<sup>3</sup> (前) 金額 + in ~  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文 (他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

*inasmuch* (接) *inasmuch as* S V .. / *inasmuch as* S V ..

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

例文

*include* (動) 全部のものの場合

(KNC) (全体の一部として) 含む / -

(ORE) (部分・要素として) ...を含む / -

(TGE) <人・物・事が> <人・物・事>を(全体の中の一部として) 含む / -

最初が語義の説明, 次が当面の用例と同じ意味になる例文。

*increasingly* (副) 「いよいよ・ますます」

(KNC) 本文

(ORE) *become increasingly sleepy*

(TGE) *become increasingly difficult*

KCL: *It is becoming increasingly difficult to live within my income.*

SRH: *As Beethoven grew older, it became increasingly difficult for him to hear.*

例文を転記しておく。(KEJ, KGR には例文がない。)

*insofar* (接) *insofar as* S V .. (分かち書きになっている場合)

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

分かち書きの場合の例文

*interest* (名) *in the interest of* ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

例文

*into*<sup>2</sup> (前) 基数詞 ~<sub>1</sub> *into* ~<sub>2</sub> 「~<sub>1</sub> だけ入ったところで」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

*involve*<sup>2</sup> (動) 「内容の一部としてもつ・付帯事項としてもつ」

(KNC) 第一義「巻き込む」(太字) / 第二義「含む」(太字なし)

(ORE) 第一義「巻き込む」(太字) / 第二義「伴う」(太字)

(TGE) 第一義「巻き込む」(太字) / 第二義「含む」(太字なし)

意味の表わし方

*it*<sup>5</sup> (代) *It is not that* ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

*know*<sup>1</sup> (動) 「思慮分別がある」

(KNC) 本文

(ORE) *I know better than to give tongue to this question.*

(TGE) *You should have known better (than to do such things).*

例文 (3辞書とも成句としての取り扱いである。)

*know*<sup>3</sup> (動) S V *not know* + 疑問詞

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) 本文

言及

*late*<sup>2</sup> (形) 「故人」

(KNC) *my late father* 亡父 / *the late Mr. Brown* 故ブラウン氏

(ORE) -

(TGE) *the late president* 前大統領 / *her late (lamented) husband* 彼女の亡夫

例文

*later* (副) 基数 ~ *later*

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

KGR: 本文

例文

least<sup>1</sup> (副) least ~ 緩叙法

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
(SRH) 本文  
言及

leave<sup>2</sup> (動) leave O C (この語順)

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

less<sup>2</sup> (副) the less + 形容詞 + 名詞, 絶対比較級

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及 (なお, 見出し語 the のもとでも事情も上と同じ)

logical (形) 「自然に思い付く」

(KNC) -  
(ORE) (本文)  
(TGE) -  
言及

London (名) 国家

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

many<sup>1</sup> (代) 無特定のな用法

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
これに該当する例文

mean<sup>1</sup> (動) 「本当にそのように思っている」

(KNC) <...> のつもりで言う。  
(ORE) ... のつもりで言う。... のことをさして言う。  
(TGE) <人が><言葉などを> (... の) つもりで言う。... を指していう。(... のことを) 言おうとする (that 節)。  
意味の説明として用いられている文言

merit (動) 「値する」

(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) -  
例文

mixed (形)

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
ニュアンスの点の説明

more<sup>4</sup> (副) the more + 形容詞 + 名詞, 絶対比較級

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及 (なお, 見出し語 the のもとでの事情も上記と同じ)

much<sup>1</sup> (代) much of a ~

(KNC) - / -  
(ORE) so, too などを伴って / Hamlet is too much of a thinker.  
(TGE) 本文 / 本文  
too much of a ~ の用法の説明 / その例文

much<sup>2</sup> (代) so much as ~ 「~すらも」条件をいう場合

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

much<sup>4</sup> (形) so much ~ さほど意味のない「同じ分量の」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

nearly<sup>2</sup> (副) 「ほとんど」, 肯定的

(KNC) 第一の b. の区分 I was nearly run over by a car. ∴ 第一の a. の区分 It is nearly half past six. / We are nearly at the top of the hill. ほか  
(ORE) 第一区分 He very nearly married her. / She was nearly as rich as himself. ほ

か。

(TGE) 第一区分 He very nearly fell into the pond. / nearly always ほか

KCL: 第二区分 Oh, I nearly forgot. / We nearly missed the bus. ∴ 第一区分 It is nearly nine o'clock. / It is nearly time to go to bed. ほか。

KNE: 第一区分の b. She nearly fell into the river. / ∴ 第一区分の a. It is nearly time to go. / The letter is nearly finished. ほか。

SCC: 第二区分 I nearly missed the bus. / She was nearly drowned. / escape nearly ほか / ∴ 第一区分 The new house is nearly finished. / It's nearly time to go. ほか。

前項目 (nearly<sup>1</sup>) のことも合わせて記す。∴ の前に否定的な意味のための意味区分と例文, ∴ の後に肯定的な意味のための意味区分と例文を記す。∴ がない辞書ではこの区分分けが行われていない。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

next<sup>1</sup> (形) 次の次

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

not<sup>3</sup> (副) and と共起する場合

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

例文

not<sup>5</sup> (副) not only not ~<sub>1</sub>, but (not) ~<sub>2</sub>

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) 本文

言及

now<sup>3</sup> (接) now that ~<sub>1</sub>, ~<sub>2</sub> 「いまや~<sub>1</sub> であるという状況のもとで」

(KNC) ない

(ORE) ない

(TGE) ない

now<sup>2</sup> の項目との間に別々の取り扱いがあるか

of<sup>1</sup> (前) 「~の中にあって」

(KNC) 本文 (成句として)

(ORE) here of all places

(TGE) of all things

例示

of<sup>8</sup> (前) ~<sub>1</sub> be of ~<sub>2</sub>, 材料

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

言及

of<sup>9</sup> (前) ~<sub>1</sub> be of ~<sub>2</sub>, 所属

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

of<sup>10</sup> (前) ~<sub>1</sub> be of ~<sub>2</sub>, 目的格属格

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

on<sup>7</sup> / upon (前) 「~また~」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

upon のところでの記載

one<sup>1</sup> (代) 「人」

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) We are not the ones to tell him.

(<the ~(s) + 修飾語>の区分に)

例文

one<sup>5</sup> (代) 「その一つの例」

(KNC) 既出の可算名詞の反復を避けて, (その) 一つ, それ

(ORE) 先行する可算名詞句の一例

(TGE) a (an) + 名詞の代用で, 非特定または総称の人・物を指す

INE: 前出名詞との反復をさけて

KEJ: 同一名詞の反復を避けるために a + 普通名詞の代わりに用いて, それと同類の者(物)

KGR: 可算名詞の反復を避けるために用いて, 同類のもの

KNE: 既出の countable の名詞の反復を避けてこの用法が属する意味範疇の規定の仕方。下線は引用者。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

o n e<sup>6</sup> (名) for one 「一例を言えば」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

例文

o n e s e l f<sup>6</sup> (代) in spite of oneself

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

例文

o n l y<sup>1</sup> (副) only の位置の問題

(KNC) -- (only が動詞の傍にある文が、そうではない文と同じ意味である旨の説明がある—引用者)。

(ORE) 論文などの改まった文体では、... only は限定する語句の直前に置かれる傾向が比較的強い。しかし口語的な文体では、... の位置にくることが非常に多く、話し言葉では音調によって意味があいまいになるのを防いでいる。

(TGE) only は通常修飾する語・句・節の直前か、時に直後におく。略式では動詞の直前 (be 動詞、助動詞はその後) に置かれる傾向にあり、only に修飾される語は強く発音される。

ICE: 「動詞を限定。He can only guess (guess only). 主語を限定。Only you (You only) can guess ... しかし only は動詞と結合していても他の部分を限定することがある」

INE: 「only の位置により意味が異なることがある。Only you (you only) can guess. は主語を限定、You can only guess (guess only) は動詞を限定」

KNE: 「ただし... (例示—引用者) と云うべきところに、only を述語動詞の前に置いて... (例示—引用者) という傾向もある」

OCE: 「文を修飾する場合は動詞の前に置かれることが多い。一般には only を動詞の前に置く傾向が強く、また特に強調する場合を除いては副詞 only が文頭に来ることは少ない」

SRH: 「とくに形式張った書き言葉では、修飾する語句の直前に置かれることが多い。... しかし only が最も多く置かれる位置は、(本) 動詞の直前であり、話し言葉では強勢によって文意を明らかにし、一般に強く発音される語句が修飾される要素であることになる」

説明の転記 (他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

o r d e r<sup>1</sup> (名) in descending order

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KEJ: 本文

KGR: 本文

言及

o t h e r w i s e<sup>1</sup> (副) 「それ以外の点では」、名詞句内の小部分としての用例

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KGR: 本文

例文

o t h e r w i s e<sup>2</sup> (副) 「さもなければ」、名詞句内の小部分としての用例

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

p a i d (動一分詞) S be paid for 「S に、その代価が支払われる」

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

KEJ: 本文

例文

p a y a b l e (形) 支払うべき

(KNC) 本文

(ORE) payable to bearer

(TGE) -

OAL: 本文

KCL: 本文

例文

place (名) in the first place

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

言及

plausible (形) 「しかるべき」

(KNC) -

(ORE) 信頼できそうな

(TGE) (話, 議論などが) 妥当な-

KEJ: (説明が) 穏当な

SRH: もっともらしい (かならずしも悪い含みはない)

説明

politically (副) politically correct

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

powers (名) 当局

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

例文

progressively (副) 「しだいに」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

LGM: 本文

例文

put<sup>1</sup> (動-分詞) put, SV ..

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

quote (動) S be quoted as ...ing ~

(KNC) 本文 / <新聞などでよく用いられる>

(ORE) He was quoted as saying that... 彼は...と述べていると伝えられた / <->

(TGE) He is quoted as having said that ...

彼は...と言ったといわれている / <->

ICE: -

KGR: -

KNE: -

SRH: -

/の前は例文, 後は説明

relative (名) 親族

(KNC) 親類 (の人), 親戚 (の人) / 本文: He's a close (distant) relative of mine.

(ORE) 親類, 親戚, 姻戚, 縁者 / 本文

(TGE) 親族, 身内. 家族や結婚による縁者を含む / 本文

/の前は意味の規定, 後は例文

relevant / irrelevant (形) 「重要性・有意義性がある / ない」

(KNC) 本文 / His remarks are irrelevant to the subject under discussion.

(ORE) a confidential matter relevant to the case / irrelevant to our argument

(TGE) Your question is not relevant to the subject. / -

LGM: These issues are directly relevant to the needs of slow learners. / 本文

relevant / irrelevant の例文

rest (名) the rest of ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

sabotage (動) 破壊活動をする

(KNC) sabotage a person's plan

(ORE) -

(TGE) -

SRH: 本文

例文

said (動-分詞) 「そうは言うものの」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

言及

say<sup>2</sup> (動) what S have to say

(KNC) -



(ORE) -

(TGE) -

言及

she<sup>2</sup> (代) 同一の人称代名詞, 異なる指示対象

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

should<sup>5</sup> (助) ~ should S<sub>1</sub> do 「万一 S<sub>1</sub> が  
…するとしたら, ~であろう」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

言及

should<sup>K</sup> (助) that S do

(KNC) 口語では should を用いないことが多い。

(ORE) <米>語では should を用いず, 原形動  
詞 (仮定法現在) だけであるのがふつう。

<英>でもこの傾向が広く見られる。

(TGE) - (例文のみ)

上は説明文の転記

so<sup>2</sup> (副) It so happened that ~

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

例文

so<sup>3</sup> (副) So it be that ~

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KEJ: 本文

例文

so<sup>6</sup> (副) so much so that ~

(KNC) -

(ORE) 本文 (成句としての言及)

(TGE) The sea was very rough-so much so  
that the ship couldn't get into the harbor.

例文

someone (代) 「者(人)」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KEJ: 本文

例文 (言及)

something<sup>1</sup> (代) 「物」

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文 (言及)

spoken (動一分詞) S be spoken of as ~

(KNC) 本文

(ORE) -

(TGE) -

言及

suppose<sup>2</sup> (接) suppose ~<sub>1</sub>, ~<sub>2</sub>

(KNC) 動詞

(ORE) 動詞

(TGE) 動詞

品詞の取り扱い

supposed<sup>3</sup> (動一分詞) be supposed to do

(KNC) -

(ORE) 本文

(TGE) -

例文

suspect (動) 悪くないことについて言う場  
合。

(KNC) 本文

(ORE) The answer to this question, scientists  
have long suspected, lies in the genetic  
material of the cells.

(TGE) - (通例好ましくないことや都合の悪いこ  
とにたいして用いる, と説明がある。)

該当する例文

technically (副) 「規則 (条文) 通りにい  
うと」

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KCL: 本文

例文

telling (形) / ~ly (副) 「強烈に」, 副詞と

しての用法

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

term<sup>s</sup> (名) in terms of 動名詞 ...

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

than<sup>6</sup> (関代) ~ than V ..

(KNC) Her services are more valuable than was supposed. 彼女の尽力は想像していたより貴重なものである。

(ORE) It has caused greater changes than had occurred since 2,000 B.C. それは紀元前2000年以降に起きた大変化よりも大きな変化をひき起こした

(TGE) We have more apples than could be eaten in a day. 1日では食べきれないほどのリンゴがある

SCC: There is more in life than meet the eye. 人生には目にみえる以上のものがある

言及, 例文 (他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

that<sup>3</sup> (代) that is

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

that<sup>23</sup> (関代) 名詞 + that S be, 関係代名詞の that が続く "S be" にとっての補語

(KNC) a. 主語として b. 補語として c. 他動詞, 前置詞の目的語として

(ORE) 1. 主語 2. 目的語・補語

(TGE) 1. 主格・目的格

KCL: 1. 主語となる 2. 他動詞の目的語となる 3. 前置詞の目的語となる 4. 補語となる

以上は, 意味区分の立て方。

INE: <記述名詞・記述形容詞を先行詞とする挿入句的感嘆節で> Fool that he is! / <= who, whom, which> Fool that he is! ((同じ例文が二度のっている))

INE: <記述名詞・記述形容詞を先行詞とする挿入句的感嘆節で> Fool that he is!

SPE: <関係代名詞の先行詞が補語になっている場合> Fool that I am!

以上は, 本文で言及した例文。(他の辞書については本稿の b の調査を参照)

that<sup>24</sup> (関代) 名詞<sub>1</sub> that be 名詞<sub>2</sub> (名詞<sub>2</sub> は固有名詞)

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -

言及 (他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

that<sup>25</sup> (関代) 二重限定の関係詞構文

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -

言及

that<sup>26</sup> (関代) 先行詞が疑問代名詞の what

(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) -  
言及

that<sup>27</sup> / which<sup>1</sup> / who<sup>1</sup> (関代) 名詞 + that + S V<sub>1</sub> .. + V<sub>2</sub> .. / 名詞 + which + S V<sub>1</sub> .. + V<sub>2</sub> .. / 名詞 + who + S V<sub>1</sub> .. + V<sub>2</sub> ..

(KNC) that: -  
which: -  
who: -

(ORE) that: 本文  
which: -「-」  
who: -

(TGE) that: -  
which: 本文  
who: 本文

言及 (例文)

that<sup>K-7</sup> (関代) 名詞 + S be, 「S がすなわちそれなのであるところの, 名詞」

(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) These are the only good books (that) there are on the subject.)  
省略を示す例文

that<sup>K-8</sup> (関代) 名詞 + there be, 「存在しているところの, 名詞」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
省略を示す例文

that<sup>K-10</sup> (関代) 名詞 + SVC (第5文型)

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

that<sup>K-11</sup> (which<sup>K-1</sup> / who<sup>K-1</sup>) (関代)  
名詞 + SV<sub>1</sub> ... + V<sub>2</sub> ..., 挿入節を含んだ関係代名詞節からの関係代名詞の省略

KNC: that: - 「-」

which: - 「-」

who: - 「主格の関係代名詞は省略をしないのが原則だが, there is ... などの後では省略されることがある」

(ORE) that: 本文 / 「関係詞省略 : 主語の場合には there is (are) の後や it ... that の場合以外省略しない」

which: - / 「-」

who: - / 「ふつうは省略不可であるが, there is ... 構文などでは [口] で省略することもある」

(TGE) that: - / 「There is で始まる文では主格でも省略可能」

which: 本文 / 「主格であっても挿入句前の which が省略されることがある」

who: 本文 / 「略式では There is (was) ... や強調構文の It is (was) ... の後では省略されることがある。 / 挿入句の前の who が省略されることがある」

SRH: 本文

初めに, 当面の形式の例文。次に, 主格関係代名詞のこれ以外の場合を含むあらゆる場合での省略に関する説明の文言。(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

the<sup>2</sup> (冠) 呼び替えのある場合

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -

例文

the<sup>4</sup> (冠) 社会, 世間に基礎をおく

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

the<sup>6</sup> (冠) 唯我的「了解の基礎」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

the<sup>7</sup> (冠) 小説の書き出し

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

the<sup>11</sup> (冠) the + 国民名, 国際社会の単位として

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
この形式の, この意味に当たる用例 (他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

the<sup>12</sup> (冠) the + 家名, 個人名の場合

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
用例

there<sup>2</sup> (副) for there to be C, "to be" が副詞的

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

third (名) 分数

(KNC) One (a) third of the senators are elected every two years. / -  
(ORE) a third of Italy's consumption of sheet glass / fold a robe in thirds  
(TGE) 本文 / two thirds  
SRH: one third of the total / 本文

例文。／よりも後のところは、分子が2以上のと  
きのもの

t h i s<sup>1</sup> (形) this + 人の立場をあらわす名詞  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
SRH: 本文  
言及

t h o s e<sup>3</sup> (代) those of us ~ など  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及(例文)

t i m e (名) some of the time など  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
当面の形式のもとでの例

t o<sup>6</sup> (前) 名詞 + to do  
(KNC) ない  
(ORE) ない  
(TGE) ない  
参照案内の断り書きの有無

t o<sup>7</sup> (前) S be + 形容詞 + 名詞 + to do 「S は  
…するには…であるような名詞だ」  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
言及

t o<sup>9</sup> (前) S V …, to do, 「S V … である。そし  
てやがて, …する」  
(KNC) <結果>  
(ORE) <結果>  
(TGE) <結果>  
所属する意味範疇

t o<sup>10</sup> (前) To do, S V … 「次は… する (do) こ  
とに当たるのであるが, すなわち S V  
… である」  
(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) -

言及

t o<sup>K</sup> (前) 「to 不定詞」における省略  
(KNC) - / 本文  
(ORE) - / All he could do was (to) repeat it.  
(TGE) - / -  
比較表現の場合の例示 / 補語の場合の例示

t o o<sup>1</sup> (副) all too ~  
(KNC) It ended all too soon.  
(ORE) Our holidays ended all too soon.  
(TGE) 本文  
例文

t o o<sup>3</sup> (副) not + too ~, 緩叙法  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
この用法についての説明

t u r n (名) in turn  
(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
言及(例文)

t u r n e d (動-分詞) 名詞<sub>1</sub> + turned + 名詞<sub>2</sub>  
(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) Sally Quinn is a reporter-turned-  
novelist. サリー=クインは新聞記者から小  
説家となった

KCL: 本文  
LGM: actor turned politician / football  
player turned author [someone who has  
done one job and then does something  
completely different.

OAL: He's a lawyer turned politician (He  
was formerly a lawyer but is now a  
politician.

WBS: Wartime diary of a journalist turned  
lieutenant commander. / Walls rise sheer  
around the courtyard turned theater.

例文とその訳文(他の辞書については本稿の b. の  
調査を参照)

u p<sup>1</sup> (副) up and down 副詞としての用例  
(KNC) -

(ORE) -  
(TGE) -  
KEJ: 本文  
例文

way<sup>5</sup> (名) ~<sub>1</sub>, the way ~<sub>2</sub> 「~<sub>1</sub> である。そして他方で」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
「そして他方で」の場合。言及

way<sup>6</sup> (名) the way ~ 「~ から判断すると」  
(判断者の明示がない)。

(KNC) 本文  
(ORE) He seemed uneasy the way he stood there.  
(TGE) -  
KEJ: The way they proposed the problem, we can assume that none of them are thinking of changing their mind.  
SRH: John must be in love with Judy, the way he talks about her.  
当面の用法の例文(他の辞書については本稿の b. の調査を参照)

way<sup>7</sup> (名) the other way around

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KEJ: 本文  
例文

way<sup>8</sup> (名) have a way of ...ing

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
イディオムとしての扱いがあるか

week (名) 時間数 + week など

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
SRH: 本文  
例文

well<sup>2</sup> (副) ~<sub>1</sub> as well as ~<sub>2</sub> 二つの事柄の  
単なる並列

(KNC) 本文  
(ORE) -  
(TGE) -  
KGR: 本文  
例文

what<sup>2</sup> (代) what S be (all) about

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
SRH: 本文  
all を伴わない場合への言及

what<sup>6</sup> (関代) what be C, 事物ないし事象を  
what 節の中に包み込む。

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

what<sup>10</sup> (関代) ~<sub>1</sub>, ~<sub>2</sub>, and what not

(KNC) 本文  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

what<sup>14</sup> (関形) "what + 名詞" が主格(主語)  
の場合

(KNC) -  
(ORE) 本文  
(TGE) -  
KEJ: 本文  
例文

what is<sup>K</sup> (特別) 形容詞, S V ... (形容詞は  
センテンスの先頭)

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

whatever<sup>1</sup> (関代) whatever V ... 「V ... で  
あるようなものは何であろうと」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文-  
例文

where<sup>3</sup> (関副) It be C where ~ 「～である  
場所は, Cである」

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

which is<sup>K</sup> (特別) S V .., 名詞.

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

whichever (関形) whichever 名詞 ~ 「～  
であるような名詞はどれでも」

(KNC) <疑問形容詞> 本文  
(ORE) <関係詞> Please take whichever  
(one) you like. どちら(どれでも欲しいの  
をお取りなさい  
(TGE) <関係代名詞; 形容詞的用法> Take  
whichever (one [ones]) you want. 欲し  
いものをどれ(どちら)でもお取りなさい

whole (形) whole ~, 個々においてそれぞ  
れその全体

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

whose<sup>2</sup> (関代) 名詞<sub>1</sub>, whose + 名詞<sub>2</sub> + it  
be to do

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
言及

with<sup>8</sup> (前) 他動詞 + O with ~

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
見出し語 with のもとでの言及

with<sup>K-1</sup> (前) S V .., 名詞 + -ing

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) 本文  
例文

with<sup>K-3</sup> (前) S V .., 名詞 + 形容詞

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

with<sup>K-4</sup> (前) S V .., 名詞<sub>1</sub> + 名詞<sub>2</sub>

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

would<sup>1</sup> (助) 純粋な, 過去から見た未来

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KGR: 本文  
例文

would<sup>3</sup> (助) 単なる仮定

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
説明

would<sup>4</sup> (助) 文内の何か別の表現が, 現実に反  
する仮定の条件を提示する

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
KCL: 本文  
例文

yes (副) 否定を否定する形, センテンスを伴わ  
ない

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -  
例文

you<sup>1</sup> (代) 総称的 (3人称複数)

(KNC) -  
(ORE) -  
(TGE) -

you<sup>2</sup> (代) 総称的 (1人称単数)

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

KEJ: 本文

例文 (他の辞書については本稿の b の調査を参照)

y o u<sup>3</sup> (代) 総称的 (3 人称単数)

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

y o u<sup>4</sup> (代) たんなる 3 人称単数への転用

(KNC) -

(ORE) -

(TGE) -

例文

## b. 13英和辞典の記述 (21単語24語法)

序／辞典一覧／a<sup>9</sup> ~ you<sup>2</sup>／比較

### 序

- 1 ここに13英和辞典とは、本稿冒頭に触れた英文解釈キーワード論の「資料」にE-1類、2類、3類、4類として挙げる予定の合計13の辞典をいう。
- 2 見出し語の肩の小さな番号は上記のキーワード論で使用する番号。見出し語の次の短い字句はその単語の当面に問題にしている語法。ここではそれぞれの語法について、上記の英和辞典の記述——例示文、意味の規定、説明の文言、等——をそのまま転記する。(随所に「本文」とあるのは上記のキーワード論を指している。)
- 3 辞典には改版が行われるが、以下は KCL, KEJ, KNC の3辞典についてその1991年の時点での状態を、他の辞典についてその1995年の時点での状態を表わすものである。この調査はこのような不整合を内部に含んでいるために、これを自己完結性のある調査として提示することは不適切である。しかしあえてこれを報告する理由は、この調査が上記のキーワード論のためにかねてより進行中の一連の作業(同論考に「英和辞典の記述」の「手続・まとめ」として述べる)において、その中の一つのステップに当たっているからである。
- 4 この調査は、その一部分が既に発表済みの次の2論文の報告を再利用する形のものである。「名詞の概念を限定する接続詞節のAS」、『富山医科薬科大学一般教育紀要』第14号(1992), 1-10頁。／「英和辞典に記載が望まれる基本的単語の語法——any, best, compare, give, in, that, turn, which をめぐって」、『富山医科薬科大学一般教育紀要』第16号(1994), 27-43頁。ただし、再利用であるにもかかわらず、内容がこれらと食い違っている部分がある。これには本調査があらたな視点を用いている場合と、本調査が1995年における状態(上記の第3で述べた)を取り入れていることによる場合とがある。
- 5 各項目の末尾に、そこにはいかなる性質の記述が転記してあるか、を記す。

### 辞典一覧

英和辞典の書名、版をこの調査のときの状態に即して表わしておく。※印の6辞典において、「資料」において行なう表示との間に相違がある。なお略号の KCL はここでは KLE であるべきだが、あえて上記の「資料」に掲げる略号を用いておく。

版や書名の変更に付帯する一連の事情は、上記のキーワード論の「英和辞典の記述」の章(その「手続・まとめ」の部分)で述べる。

『岩波英和大辞典』中島文雄編(岩波書店, 1970-18刷) ⇒ ICE／『岩波新英和辞典(補訂版)』中島文雄, 他編(岩波書店, 1987-補訂6刷) ⇒ INE／※『講談社英和辞典(第2



版)』川本茂男編(講談社, 1977-16刷) ⇒ KEJ/※『研究社リーダーズ英和辞典』松田徳一郎監修(研究社, 1984-12刷) ⇒ KGR/※『研究社ライトハウス英和辞典(第2版)』竹林滋, 他編(研究社, 1990-7刷) ⇒ KCL/※『研究社新英和中辞典(第5版)』小稲義男, 他編(研究社, 1985-34刷) ⇒ KNC/『研究社新英和大辞典(第5版)』小稲義男編(研究社, 1980-22刷) ⇒ KNE/『旺文社英和中辞典』高橋源次監修(旺文社, 1975-1991重刷) ⇒ OCE/『旺文社ロイヤル英和辞典』宮部菊男, 他編(旺文社, 1990-1991重刷) ⇒ ORE/『三省堂カレッジクラウン英和辞典(第2版)』大塚高信, 他編(三省堂, 1989-5刷) ⇒ SCC/『小学館プログレッシブ英和中辞典(第2版)』小西友七, 他編(小学館-15刷) ⇒ SPE/※『小学館ランダムハウス英和大辞典第2版』同辞典第2版編集委員会編(小学館, 1994-1刷 ⇒ SRH/※『大修館ジーニアス英和辞典(改訂版)』小西友七編(大修館, 1994) ⇒ TGE

a<sup>9</sup> (冠) a + 固有名詞

ICE: a Newton

INE: He is a Hercules in strength.

KCL: I want you to be an Edison.

KEJ: He is a Napoleon.

KGR: a Newton

KNC: a Newton

KNE: He is a Newton in his scientific genius.

OCE: a Hercules / a Nero

ORE: a Mozart / a Daniel / the mind of a Newton or a Bach / a second Machiavelli

SCC: a Newton

SPE: an Edison

SRH: a Cicero in eloquence. / He is a Jona. / A Jesus makes a Judas inevitable.

TGE: He thinks he is an Edison.

挙げられている例

a n y<sup>2</sup> (形) 最上級とともに用いる場合

ICE: He is the most generous man of any.  
(彼は一番寛大の男だ。)

INE: -

KCL: -

KEJ: -

KGR: He is the best-known of any living novelist. (彼は現存の小説家中もっとも有名な。)

KNC: -

KNE: -

OCE: -

ORE: -

SCC: -

SPE: -

SRH: -

TGE: -

例示(カッコ内は訳文)。

a s<sup>12</sup> (接) 名詞(,) as ... ed.

ICE: <前置詞・分詞などの前でその意味を限定する。> men, as different (distinct, distinguished) from animals / their position, as compared with what it was

INE: <前置詞・分詞などの前でその意味を限定する。> -

KCL: <(しばしば先行する名詞を修飾する) 形容詞・分詞などの前に置いて> the earth as seen from a space-ship

KEJ: <分詞などを伴って> a nation as distinguished from a country / this century as compared with the last / Tokyo as seen from the air / He carried out the plan as promised.

KGR: <前置詞・分詞の意味を制限して> Socrates' conversation as reported by Plato

KNC: <直前の名詞の概念を制限して> <形容詞・過去分詞・前置詞を伴い> Socrates'

conversation as reported by Plato

KNE: <あとにある種の形容詞・過去分詞・前置詞を伴い制限の意を添えて> colloquialism as contrasted with literary style / <先行する名詞の概念を制限する形容詞節を導いて> The sight of the mountain as seen from the lake-side

OCE: -

ORE: <限定><省略節> -

SCC: <名詞を修飾><節は短縮されて 'as + 過去分詞' の形になることもある。> Mt. Fuji as seen from Suruga / The King's erratic yet vigorous life, as depicted by Shakespeare / artificial, as opposed to natural

SPE: <名詞を限定する節を導いて><it is は慣用的に略され、節に過去分詞、形容詞のくることが多い。> the English language as spoken in America / the earth as viewed from a satellite

SRH: <名詞を限定する節を導いて> the English language as (it is) spoken in America

TGE: <直前の名詞を限定して> <時に as の直後に主語と be 動詞が省略されて過去分詞や形容詞がくることがある。> -

この名詞(,) as ... ed の形式についての説明と例文を転記する。(例文がセンテンスである場合は、うちの当面問題にしている部分のみを記す。)

a s<sup>13</sup> (接) 名詞(,) as ~ ( ~ は S V をもつ形式)

ICE: -

INE: -

KCL: <(しばしば先行する名詞の意味内容を限定する節を導いて> a lot about Kyoto as he knew it ten years ago

KEJ: <++> a butterfly as it comes out of the egg / freedom as we generally understand it

KGR: <直前の名詞の概念を制限して> the origin of schools as we know them

KNC: <直前の名詞の概念を制限して> the origin of universities as we know them

KNE: <先行する名詞の概念を制限する形容詞節を導いて> the origin of English as we know it / Old John as we called him

OCE: -

ORE: <限定> The book, as he glanced at it, was written in an awkward way. その本は彼がちらりと見たところでは分かりにくい書き方がしてあった

SCC: <名詞を修飾> life as we know it / the U.S.A. as I saw it ten years ago / <挿入的に> (元来の意味は「...のように」であるが、文頭・文尾または途中に挿入されて) ... だが; (文頭に出ている形容詞や分詞の次に挿入された場合は、けっきょく強めのことばとなる) 実際、事実。This is an example of natural selection, as you call it (as it is called). これがいわゆる自然選択の一例である。...

SPE: <名詞を限定する節を導いて> the American way of life as I know it / the English language as (it is) spoken in America

SRH: <名詞を限定する節を導いて> the American way of life as I know it / the English language as (it is) spoken in America

TGE: <直前の名詞を限定して> language as we know it

この名詞(,) as ~ の形式についての説明と例文を転記する。( <++> は項目の設定が意味にもとづいて非統語論的。例示がセンテンスである場合、うちの当面問題の部分のみを記す。) なお、 <SCC> は上記の他にさらに9つの例文がある。

b a r e l y<sup>2</sup> (副) 否定的な用法

ICE: <-> -

INE: <-> -

KCL: <hardly, scarcely は「ほとんど...ない」という否定の意味であるが、barely は「やっと(かろうじて)...する」という肯定的意味を表わすのが普通だが、ただし時には否定的な意味になることもある。> -

KEJ: <ほとんど...ない> -

KGR: <ほとんど...ない> a barely furnished room

KNC: <ほとんど...ない> The old man barely talked to each other.

KNE: <ほとんど...ない> -

OCE: <ほとんど...しない> I barely heard any noise in the house.

ORE: <(否定) ほとんど...ない> I can barely understand him. / They barely need a

thing.

SCC: <-> -

SPE: <ほとんど...しない> I barely heard any noise in the house.

SRH: <ほとんど...しない> I barely heard any noise in the house.

TGE: <(家具などが) 十分でない> a barely furnished room

意味への言及と例文(本当の意味での否定の意味をもつもの)

b e<sup>3</sup> (動-定形) be S ~<sub>1</sub> or ~<sub>2</sub> 可能性の列挙

ICE: be it true or not.

INE: -

KCL: -

KEJ: -

KGR: be it true or not.

KNC: -

KNE: be it true or not.

OCE: -

ORE: -

SCC: -

SPE: -

SRH: -

TGE: -

言及

b e s t (副) S be best...ed 「Sは...されるのにか  
ぎる

ICE: -

INE: -

KCL: -

KEJ: -

KGR: -

KNC: That is best refused.

KNE: This is best refused.

OCE: -

ORE: These memories are best forgotten.

SCC: -

SPE: -

SRH: It is best ignored.

TGE: -

言及

c o m p a r e d (動-分詞) ~<sub>1</sub>, compared  
to ~<sub>2</sub>, 追叙的な  
用法

ICE: - (I have done little this year compared

with what I did last year.)

INE: - (-)

KCL: - (The US is large compared with Japan.)

KEJ: - (-)

KGR: - (-)

KNC: - (The earth is only a baby compared with many other celestial bodies.)

KNE: - (-)

OCE: - (-)

ORE: - (They are well off compared with what they were ten years ago.)

SCC: - (It was quite a large house compared with theirs.)

SPE: - (compared with China)

SRH: - (-)

TGE: - (-)

言及( / の次は、文の述部が compared with ~ の~のところと比較されているような例)

g i v e n<sup>2</sup> (動-分詞) given ~ 「~が在るのだから」

ICE: given these facts (premises) (これらの事実(前提)を仮定すると) / Given good weather, our ship will reach Bombay Friday evening. / Given A and B, C follows. (AとBが与えられるとCがえられる)

INE: given these facts (premises) (これらの事実(前提)を仮定すると) / given good weather (好天に恵まれれば)

KCL: Given good health, nothing is impossible. (健康さえあれば)

KEJ: Given good weather, our ship will reach Karachi Friday morning. (天気がよければ) / Given the supposition as fact, there will be no planet like our earth in the universe. (もしこの仮定を事実とすると)

KGR: Given good weather, the thing can be done. (天気がよければ)

KNC: Given good health, one can achieve anything. (健康でいられれば)

KNE: given these facts (コレラノヲ(ト)スレバ) / Given health, one can achieve anything. (健康であれば)

OCE: Given health, the thing can be done. (健康であれば) / given A and B, C

follows. (AとBが与えられるとCがえられる)

ORE: Given the above assumptions, it is predicted that ... (上述のように仮定すれば) / It would be possible, given a little more time, to save your company. (もう少し時間があれば)

SCC: Given good weather, the ship will reach the destination in two days. / Given the choice of a novel or a play, the latter will win. (どちらかを選ぶことになる)

SPE: Given the basic premise, the argument makes sense. (その基本前提を所与のものとするれば)

SRH: Given A and B, C follows. (AとBが与えられれば) / Given the basic premise, the argument makes sense. (基本前提を仮定すれば)

TGE: Given her inexperience, (then) she has done well. (未経験であることを考え合わせると、彼女はよくやったほうだ)

この形式について与えられている例文(カッコ内に訳文、なお、見出し語は一部の辞書においてgivenではなくてgiveである)。

given<sup>3</sup>(動一分詞) given that ~ 「~ という事実が在るのだから」

ICE: -

INE: -

KCL: Given that the radius is 4 ft., find the circumference. (半径4フィートとすると)

KEJ: -

KGR: Given that the radius is 4 feet, find the circumference. (半径4フィートの場合)

KNC: Given (that) one is in good health, one can achieve anything. (健康でいられれば)

KNE: Given that the radius is 10 cm, find the circumference. (半径10センチの場合) / Given that you are right, how will you explain this phenomenon? (君の云うのが正しいとしても)

OCE: given that the radius is 20 cm, find the circumference. (半径20cmとして)

ORE: Given a = b (a = b ナラバ) / Given that all men are equal (すべての人が平等だとすれば)

SCC: Given that the radius is 3 feet, find the circumference. (半径が3フィートと仮定して)

SPE: How can you write a grammar, given that no two speakers of a language speak the same way? (だれもが同じようにしゃべらないとすると、いったい文法が書けるものだろうか)

SRH: How can you write a grammar, given that no two speakers of a language speak the same way? (だれもが同じようにしゃべらないとすると、いったい文法が書けるものだろうか)

TGE: Given (that) she's inexperienced, (then) she has done well. (未経験であることを考え合わせると、彼女はよくやったほうだ)

例文(カッコ内は訳文。なお、見出し語は一部の辞書においてgivenではなくてgiveである)。

have<sup>7</sup>(動) have O...ed 受動の状態の持続

ICE: <「have + 目的語 + 過去分詞」が完了(「have + 過去分詞 + 目的語」の意味に近いことがあるが、前者では、その時の状態が強調されている> You surely had me scared.

INE: <...しておく> -

KCL: <-> -

KEJ: <-> -

KGR: <(ある状態に) しておく> They had a chart spread on the table.

KNC: <-> She had little money left in the purse. / They had a chart spread on the table.

KNE: <-> - (I have my diary written up.)

OCE: <-> -

ORE: <状態の継続・惹起><...を...の状態にしておく(する), ...が... (の状態) になっている> We have no patience left. / He had his head tilted to one side.

SCC: <-> - (They have their work done. / Please have this done at once.)

SPE: <-> - (He had his homework all done.)

SRH: <...の状態にする(保つ, しておく)> The problem had me stumped.

TGE: <-> - (Have the job done by tomorrow.)

意味の規定と例文(意味の規定はその中の「状態」)

への言及に相当している部分のみ記す。例文は意味が「状態の持続」であるような文。またカッコ内は参考までに、ややそれに近いかもしれない文。)

if<sup>2</sup> (接) ~<sub>1</sub>, if only because ~<sub>2</sub>

ICE: -

INE: (意味のみ。例文なし—引用者。)

KCL: -

KEJ: -

KGR: -

KNC: We respect him if only because he is honest.

KNE: -

OCE: -

ORE: (意味のみ。例文なし—引用者。)

SCC: -

SPE: -

SRH: -

TGE: -

例文

in<sup>3</sup> (前) 金額 + in ~

ICE: -

INE: -

KCL: -

KEJ: -

KGR: -

KNC: -

KNE: -

OCE: -

ORE: -

SCC: -

SPE: -

SRH: -

TGE: -

例文

nearly<sup>2</sup> (副) 「ほとんど」

ICE: 第一区分 nearly dead with cold / I was very nearly making a blunder. / He pretty nearly broke the record. / I was nearly six o'clock.

INE: 第五区分 He nearly drowned. / I was nearly six o'clock. / Such words are nearly meaningless.)

KCL: 第二区分 Oh, I nearly forgot. / We nearly missed the bus. / ∴ 第一区分 It

is nearly nine o'clock. / It is nearly time to go to bed. ほか。

KEJ: 第一区分 nearly dead with cold / I nearly caught him. / a nearly finished house. / an old man of nearly ninety.

KGR: 第一区分 - / -

KNC: 第一区分の b. I was nearly run over by a car. / escape nearly. / ∴ 第一区分の a. (It is nearly half past six. / We are nearly at the top of the hill.

KNE: 第一区分の b. She nearly fell into the river. / ∴ 第一区分の a. It is nearly time to go. / The letter is nearly finished. ほか。

OCE: 第一区分 - / It's nearly three o'clock.

ORE: 第一区分 He very nearly married her. / He had nearly finished the book. / She was nearly as rich as himself. ほか。

SCC: 第二区分 I nearly missed the bus. / She was nearly drowned. / escape nearly ほか / ∴ 第一区分 The new house is nearly finished. / It's nearly time to go. ほか。

SPE: 第一区分 She was nearly run over by a truck. / The sun was nearly down.

SRH: 第一区分 The bottle nearly slips from her grasp. / She was very nearly being run over by a truck. / The sun was nearly down. ほか。

TGE: 第一区分 He very nearly fell into the pond. / nearly empty / nearly always ∴ の前に否定的な意味のための意味区分と例文, ∴ の後に肯定的な意味のための意味区分と例文を記す。∴ が無い辞書にはこの区分の分立がない。また、-とあるところは例文がない。

one<sup>5</sup> (代) 「その一つの例」

ICE: <前出名詞と同じものをさして>

INE: <前出名詞との反復をさけて>

KCL: <数えられる名詞の代わりに用いて (前出の名詞と同種類のものを受けて)>

KEJ: <同一名詞の反復を避けるために a + 普通名詞の代わりに用いて>

KGR: <可算名詞の反復を避けるために用いて>

KNC: <既出の可算名詞の反復を避けて>

KNE: <既出の countable の名詞の反復を避けて>

OCE: <前出の事物を指して>

ORE: <先行する可算名詞句の一例>

SCC: <既出名詞の代用語>  
 SPE: <既出名詞と同類のものをさして>  
 SRH: <既出の可算名詞を受けて>  
 TGE: <a (an) + 名詞の代用で、非特定または総称の人・物を指す>  
 この用法が属する意味範疇の規定の仕方。下線は引用者。

only<sup>1</sup> (副) only の位置の問題  
 ICE: 「動詞を限定。He can only guess (guess only). 主語を限定。Only you (you only) can guess. ...しかし only は動詞と結合していても他の部分を限定することがある」  
 INE: 「onlyの位置により意味が異なることがある。Only you (you only) can guess. は主語を限定、You can only guess (guess only) は動詞を限定」  
 KCL: —  
 KEJ: 「は文中の種々の要素を修飾し、多くは被修飾語句の(直)前におかれる。被修飾語は通常強勢を受ける。」  
 KGR: —  
 KNC: — (only が動詞の傍にある文が、そうではない文と同じ意味である旨の説明がある—引用者)  
 KNE: 「ただし... (例示—引用者) と云うべきところに、only を述語動詞の前に置いて... (例示—引用者) という傾向もある」  
 OCE: 「文を修飾する場合は動詞の前に置かれることが多い。一般には only を動詞の前に置く傾向が強く、また特に強調する場合を除いては副詞 only が文頭に来ることは少ない」  
 ORE: 「...しかし口語的な文体では、... (例文—本稿本文参照) の位置にくることが非常に多く、話し言葉では音調によって意味があいまいになるのを防いでいる」  
 SCC: 「only はそれが係る語句の直前か直後が普通であるが、時々その位置を離れて、主語と述語動詞との間に移ることがある」  
 SPE: —  
 SRH: 「とくに形式張った書き言葉では、修飾する語句の直前に置かれることが多い。...しかし only が最も多く置かれる位置は、(本) 動詞の直前であり、話し言葉では強勢によって文意を明らかにし、一般に強く発音される語句が修飾される要素であることになる」  
 TGE: 「略式では動詞の直前 [be 動詞、助動詞はその後] に置かれる傾向があり、only に修飾

される語は強く発音される」  
 説明の転記  
 than<sup>5</sup> (関代) ~ than V .. 「V ..であるのにくらべ、より以上に ~ である」  
 ICE: —  
 INE: —  
 KCL: Her assistance was more valuable than had been expected.  
 KEJ: Don't talk more than is necessary.  
 KGR: He offered more than could be expected.  
 KNC: He offered more than could be expected.  
 KNE: —  
 OCE: The curio was more valuable than was supposed.  
 ORE: It has caused greater changes than had occurred since 2,000 B.C.  
 SCC: There is more in life than meet the eye.  
 SPE: There is more money than is needed.  
 SRH: There is more money than is needed.  
 TGE: We have more apples than could be eaten in a day.  
 言及、例文 (各辞書につき一つのみ記す)

that<sup>23</sup> (関代) 名詞 + that S be. 関係代名詞の that が続く "S be" にとっての補語  
 ICE: <= who, whom, which> Fool that he is! <記述名詞・記述形容詞を先行詞とする挿入句的感嘆節で> Fool that he is! (同じ例文が二度のっている—引用者)  
 INE: <記述名詞・記述形容詞を先行詞とする挿入句的感嘆節で> Fool that he is!  
 KCL: <関係詞節の中で補語となる> Lynn is no longer the noisy child (that) she used to be. リンはもう前のようなうるさい子ではない。この場合先行詞が人を表わしても who を用いない。  
 KEJ: <関係代名詞が関係節の中で補語となるばあい> He is no longer the idle boy (that) he used to be. / He is not the fool (that) we thought him. / Act like the [a] man that you are. / Fool that I was.  
 KGR: <制限的関係節を導いて> Fool that I am! / like the Japanese that he is  
 KNC: <補語として> Like the artist that he is, he does everything so neatly. / Fool that I am!

KNE: <制限的關係節を導いて> That is all (that) there is to say about it! / Wicked man that he was, he would not consent. / Like the Japanese that he was, he remained calm on the occasion. / Fool that I am!

OCE: <主格で補語> He is not the man (that) he was ten years ago. / An idiot that I was!

ORE: <目的語・補語> I am not the man (that) I was. / Fool that I was!

SCC: < (...する(ある)) ところの(人・物)> He is not the same man that he was two years ago. / Idiot that I was!

SPE: <關係代名詞の先行詞が補語になっている場合> Fool that I am!

SRH: <關係代名詞が補語である場合> The actor is no longer the central figure that he once was.

TGE: <補語として> He isn't the hero that he thought he was. / Fool that I am!

意味区分の立て方と例文。

that<sup>24</sup> (関代) 名詞<sub>1</sub> + that be + 名詞<sub>2</sub> (名詞<sub>2</sub> は固有名詞)

ICE: -

INE: -

KCL: -

KEJ: -

KGR: -

KNC: -

KNE: -

OCE: -

ORE: -

SCC: -

SPE: -

SRH: -

TGE: -

言及

that<sup>K-11</sup> (which<sup>K-1</sup> / who<sup>K-1</sup>) (関代) 名詞 + S V<sub>1</sub> ... + V<sub>2</sub> ..., 挿入節を含んだ關係代名詞節からの關係代名詞の省略

ICE: that: - 「...主格の場合でも it is ..., there is (are) ..., who is (are) ... の後にくる that は省略されることがある」

which: - 「-」

who: - 「[話] では there is (are) ... で始まる文の主語を先行詞とする who は省略することが多い」

INE: that: - 「...主格の場合でも it is ..., there is (are) ..., who is (are) ... などの後に来る that は省略されることがある」

which: - 「-」

who: - 「there + be 動詞の後では制限的用法の who はしばしば省略される」

KCL: that: - 「-」

which: - 「-」

who: - 「There is ... の後では who を用いないことがある」

接触節(別枠記事) - 「...主語の場合。これは普通は There [Here] is, It is ... などで始まる文に多い」

KEJ: that: - 「このばあい (What was it (that) drove him mad? の場合をさす — 引用者) 口語では主格の that も省略されることがある」

which: - 「制限用法の which が關係節の中で目的語または補語となっているばあいには省略できる。(下線は引用者)

who: - 「-」

KGR: that: - 「-」(ただし例文の中に What is it (that) V ... ? 型の文がある — 引用者)

which: - 「-」

who: - 「-」

KNC: that: - 「-」

which: - 「-」

who: - 「主格の關係代名詞は省略をしないのが原則だが, there is ... などの後では省略されることがある」

KNE: that: - 「there(here) is ..., it is ... などの後では主格でも、特に口語で略されることがある」

which: - 「-」

who: - 「-」

OCE: that: - 「主格 that は What is ..., Which is ..., Who is ..., There is ... などのあとで主語として關係詞節を導くとき, 口語ではその that を略すことがある」

which: - 「-」

who: - 「-」

ORE: that: I made sentences (that) I thought would sound well. 「關係詞省略: 主

語の場合には there is (are) の後や it ... that の場合以外省略しない」

which: - 「-」

who: - 「ふつうは省略不可であるが, there is ... 構文などでは [口] で省略することもある」

SCC: that: - 「-」

which: - 「-」

who: - 「-」

SPE: that: - 「また全体に that を省略した表現も可能である」

which: He asked the question (which) he felt needed asking. 「挿入句 he felt の影響で主格の which でも省略可能」

who: - 「-」

SRH: that: - 「主格の that を省略するのは通常非標準であるが, 教養のある人が用いる場合もある」

which: He asked the question (which) he felt needed asking. 「挿入句 he felt の影響で主格の which でも省略可能」

who: - 「-」

TGE: that: - 「主格でも, 関係代名詞が There is で始まる場合は通常文省略される」

which: I bought a book (which) I thought would be of interest to my son. 「主格であっても挿入句前の which が省略されることがある」

who: They gave attention to the children (who) they believed were clever. 「略式では There is (was) ... や強調構文の It is (was) ... の後では省略されることがある。／挿入句の前の who が省略されることがある」

はじめに, 関係代名詞の当面問題にする場合での省略を含んでいる例文。次に, 主格関係代名詞のこれ以外の場合を含むあらゆる場合での省略に関する説明の文言。

the<sup>11</sup> (冠) the + 国民名, 国際社会の単位として

ICE: <おもに国民...などの名称である複数名詞の前で> the British [the French, the Japanese] (イギリス [フランス, 日本] 国民) / the Americans [the Germans] (アメリカ [ドイツ] 国民)

INE: <おもに国民...などの名称である複数名詞の前で> the British (イギリス国民)

KCL: <複数形の固有名詞につけて...国民...をあらわす> the Americans and the Japanese (アメリカ人と日本国民) The Americans are very fond of football. (アメリカ人はフットボールがとても好きだ) The English are said to be a practical people. (英国人は実際的な国民であるといわれる)

KEJ: <the + 複数固有名詞> the Japanese [the British, the Americans] (日本人 [イギリス人, アメリカ人]) <民族全体>

KGR: <特定の固有名詞に冠する> the Americans (アメリカ人) (全体)

KNC: <国民...などを表わす複数名詞につけて>

KNE: <集合体を総括して><複数名詞に付いて> Those renowned among the Greeks (ギリシャ人の間にときめいた人たち)

OCE: <複数名詞の前に付けて国民...などの全部をあらわす> the Greeks, the Americans

ORE: <the + 複数形(形容詞)><国民...について> the English (イギリス人), the Japanese (日本人)

SCC: <総合的意味で, 複数名詞に付して全体をまとめる> the Americans (アメリカ人)

SPE: <固有形容詞に付き, 複数の人をさす> The English drink a lot of tea. (イギリス人はお茶をよく飲む)

SRH: <固有形容詞に付き, 複数の人を表わして> The Swiss (スイス人) The English defeated the French (英軍はフランス軍を破った)

TGE: <the + 国籍を表す形容詞><国民全体を表し, 複数形として用いられる> the British (英国人), the Dutch (オランダ人)

この形式の説明と用例を転記する(カッコ内は例文の訳文)。

turned (動-分詞) 名詞<sub>1</sub> + turned + 名詞<sub>2</sub>

ICE: -

INE: -

KCL: He is a Christian turned Buddhist. (彼はキリスト教徒から仏教徒に転向した人だ) 「turned = who has turned と考えればよい」

KEJ: a businessman turned poet. (詩人になった実業家)

KGR: a lawyer turned politician (弁護士出



身の政治家) <2版>

KNC: -  
KNE: -  
OCE: -  
ORE: He's an academician turned statesman.  
(彼は政治家に転向した学者だ)  
SCC: -  
SPE: -  
SRH: a lawyer-turned-poet. (弁護士から詩人  
になった人)  
TGE: Sally Quinn is a reporter-turned-novelist.  
(サリー＝クインは新聞記者から小説家となっ  
た)  
例文(カッコ内は訳文), 「 」内は説明文。

way<sup>6</sup>(名) the way ~ 「~ から判断すると」  
(判断者の明示がない)。

ICE: - / (-)  
INE: - / (-)  
KCL: - / (-)  
KEJ: The way they proposed the problem,  
we can assume that none of them are  
thinking of changing their mind. / (-)  
KGR: - / (The way I see it, the situation is  
serious.)  
KNC: The way this man paints, it will  
take him several months to finish the  
picture. / (The way I see it, the situation  
is serious.)  
KNE: - / (The way I see it, there is no hope  
for him.)  
OCE: - / (The way I see it, they must have  
thought I was crazy.)  
ORE: He seemed uneasy the way he stood

there. / (The way I see it, we have to  
think of it along these lines.)  
SCC: - / (Way I figure it, he is very lucky.  
-theはない。)  
SPE: - / (The way I heard it, the island was  
owned by a foreigner.)  
SRH: John must be in love with Judy, the  
way he talks about her. / (The way I  
heard it, the island was owned by a  
foreigner.)  
TGE: - / (the way I look at (see) it.)  
初めに当面の用法の例文, 次にカッコ内に判断者  
を明示する用法の例文。

you<sup>2</sup>(代) 総称的(1人称単数)

ICE -  
INE: -  
KCL: -  
KEJ: <聞き手の印象に訴えるために, Iの代用に  
することがある> How was your tour of  
that island? - Great. Everything you saw  
was a novelty. (島見物はとうだった—最  
高だね。見る物すべて珍しい物ばかりさ)  
KGR: -  
KNC: -  
KNE: -  
OCE: -  
ORE: -  
SCC: -  
SPE: -  
SRH: -  
TGE: -  
例文

## 比較

### 基準／結果

#### 基準

各辞典における記述について、試みに下記の基準によって評価を施してみる。この手続きが必要である理由と、各々の基準の具体的な内容は、追って英文解釈キーワード論の方で詳しく述べる。

a<sup>9</sup> (冠) a + 固有名詞

地名の場合について言及があるか。

a n y<sup>2</sup> (形) 最上級とともに用いる場合

言及があれば○。

a s<sup>12</sup> (接) 名詞 (,) as ……ed についての文法的規定, さらに後半が追叙的である場合について不可解な文法的規定に×, この語法に言及がないものに×, 追叙的である例のあるものに○。○×は相殺も行なう。

a s<sup>13</sup> (接) 名詞 (,) as ~ (~ はS Vをもつ形式), かつ後半が追叙的な場合

追叙的な例文のあるものに○, 言及がないものに×, あまりにも納得しかねる取扱いに××。

b a r e l y<sup>2</sup> (副) 否定的な用法

言及すらがないものに×。

b e<sup>3</sup> (動一定形) b e S ~<sub>1</sub> o r ~<sub>2</sub> 可能性の列挙

言及があれば○。

b e s t (副) S b e b e s t ……ed 「S は……されるのにかぎる

言及があれば○。

c o m p a r e d (動一分詞) ~<sub>1</sub> , c o m p a r e d t o ~<sub>2</sub>

言及があるか。

g i v e n<sup>2</sup> (動一分詞) g i v e n ~ 「~ が在るのだから」

この意味での用法の例文(意味への言及だけでなく)があれば○。

g i v e n<sup>3</sup> (動一分詞) g i v e n t h a t ~ 「~ という事実が在るのだから」

この意味での用法の例文(意味への言及だけでなく)があれば○, 不可解な訳文があるものに×。

h a v e<sup>7</sup> (動) h a v e O ……ed 受動の状態の持続

この使い方の例文があるものに○。

i f<sup>2</sup> (接) ~<sub>1</sub> , i f o n l y b e c a u s e ~<sub>2</sub>

例文があるものに○。

i n<sup>3</sup> (前) 金額 i n ~

言及があるか。

nearly<sup>2</sup> (副) 「ほとんど」, 肯定的

意味区分の分立があれば○。不可解な区分順位に×。例文のないものに×。

one<sup>5</sup> (代) 「その一つの例」

「一例」性への留意のある規定の仕方あれば○。

only<sup>1</sup> (副) only の位置の問題

傾向を説明し、そこに口語的であることへのバイアスなければ○。またとりわけ納得できない説明に×。

than<sup>5</sup> (関代) ~ than V ..

言及がないものに×。不可解な例文に×。

that<sup>23</sup> (関代) 名詞 + that S be. 関係代名詞の that が続く "S be" にとっての補語

補語の that を独立の項目で扱っていれば○。Fool that I am! でこの語法を代表させていれば×。

that<sup>24</sup> (関代) 名詞<sub>1</sub> + that be + 名詞<sub>2</sub> (名詞<sub>2</sub> は固有名詞)

言及があるか。

that<sup>K-11</sup> (which<sup>K-1</sup>/who<sup>K-1</sup>) (関代) 名詞 + S V<sub>1</sub> .. + V<sub>2</sub> .., 挿入節を含んだ関係代名詞節からの関係代名詞の省略

that, which, who の3語のうちいずれか1以上の語のところで言及があれば○。

the<sup>11</sup> (冠) the + 国民名, 国際的な単位として

言及があるか。

turned (動一分詞) 名詞<sub>1</sub> + turned + 名詞<sub>2</sub>

言及があるものに○。

way<sup>6</sup> (名) the way ~ 「~ から判断すると」

言及があるものに○。

you<sup>2</sup> (代) 総称的 (1人称単数)

言及があれば○。

## 結果

上記の基準にもとづいて、一応次の比較表が得られる。ただし、この比較表は次の特徴をもつものである。(あえてこの表を添える理由は、「比較」もやはり進行中の作業の一過程 (b. の序の3で述べた) に属していたに他ならない。)

- 1 集計をし比較を行なうのには観察の件数が少なすぎる。
- 2 改版にまつわる b. の序の3で述べた事情がある。これは年度の食い違いもさることながら、いま2000年2月の時点で比較を提示するに際しては、二つの先行年度以後にあつた記述の変更

が考慮されていない，ということの方が大きな不満足点になる。

3 ここでの観察点を今日振り返ってみると，辞書の「実力」を比較するのにさほど適切と言えないものも一二含まれている。

しかしながら，個々の観察と個々の評価は，これはこれとして正しいつもりである。

	ICE	INE	KCL	KEJ	KGR	KNC	KNE	OCE	ORE	SCC	SPE	SRH	TGE
a <sup>9</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
any <sup>2</sup>	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
as <sup>12</sup>	-	-	-	-	×	-	-	×	×	○	-	-	×
as <sup>13</sup>	×	-	-	-	-	-	-	×	○	×	×	-	-
barely <sup>2</sup>	×	-	-	-	-	-	-	-	-	×	-	-	-
be <sup>3</sup>	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-
best	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	○	-
comapred	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
given <sup>1</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
given <sup>2</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	×	×	○
have <sup>7</sup>	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	○	-
if <sup>2</sup>	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
in <sup>3</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
nearly <sup>2</sup>	-	×	○	-	×	○	○	-	-	○	-	-	-
one <sup>5</sup>	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	○
only <sup>1</sup>	×	×	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-
than <sup>5</sup>	×	×	-	-	-	-	×	-	-	×	-	-	-
that <sup>23</sup>	×	×	○	-	-	○	-	-	-	-	×	-	-
that <sup>24</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
that <sup>K-11</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	○
the <sup>11</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
way <sup>6</sup>	-	-	○	○	○	-	-	-	○	-	-	○	○
turned	-	-	-	○	-	○	-	-	○	-	-	○	-
you <sup>2</sup>	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
集 計	-2	-7	3	4	2	6	3	-1	6	-2	-1	5	4

(2000年2月1日脱稿)